

フィクション/  
戯曲

読得指数

笑える  
シェイクスピア  
★★★★★

岡野宏文



『メフィストフェレスの定理 地獄シェイクスピア三部作』 奥泉 光 幻戯書房 2520円

### シェイクスピアの名作をパロディにしたミステリー劇

シェイクスピアの作品には謎が多い。その謎を追及した小説にはいくつもの傑作があり、リチャード三世がほんとに悪党だったのかベッドの上で推理する「お布団探偵」大活躍の「時の娘」(ジョセフィン・ティ作)や、真犯人を園芸好きのおばさんが妄想推理するジェームズ・サーバーの「マクベス殺人事件」などなどである。この本も「リア王」「マクベス」「ロミオとジュリエット」が懐に忍ばせた謎を追っ

ていくミステリー劇三本だ。そう戯曲なんである。初手から読みにくいと逃げるなけれ。私見では、パロディとギャグ含みの台詞を巧みに採った本書は、なんか芝居と言うより落語に近いんだね。落語の本は読みやすいでしょ。目の前の空間にヴァーチャルな落語家を一人思い浮かべ、そいつが喋るところを想像して読むからである。同じことをやってみよう。登場人物たちは生き生きと動き出すはずだ。

フィクション/  
ホラー

読得指数

備えはできて  
いますか?  
★★★★★

藤田直哉



『ゾンビサバイバルガイド』 マックス・ブルックス/著 卯月音由紀/訳 森瀬 頼/訳・監修 KADOKAWA エンターブレイン 1890円

### これさえ読めば、ゾンビだらけの世界でも生き残れます!

著作「ワールド・ウォー・Z」がブラッド・ピット主演で映画化され大ヒットしている話題の著者、マックス・ブルックスによる、ゾンビの世界で生き残るための実用書だ。ゾンビが襲ってきたらどのように命を守るのか? ズンビへの噂のどれが本当で、どれが偽物か? 武器は何を使えばいいのか? どこに逃げればいいのか? 立て籠もるとしたら備蓄に何が必要か? 地球上のどの地帯に逃げれば

いいのか? ズンビがいきなり溢れだしたときに備えるハウツーが、こと細やかに本書には掲載されている。もちろん、ゾンビというのは架空の存在。だけれど、やたらとディテールが細かく、そして合理的で現実的なように書かれている本書を読んでいるうちに、「ゾンビは本当にいるかも」「そのときにはどう逃げたらいいだろうか」と考えてしまっている自分に気が付き、じんわりと汗が滲んできた。

ノンフィクション/  
歴史探検ドキュメンタリー

読得指数

サーカスの  
本質  
★★★★★

卯月 結



『明治のサーカス芸人はなぜロシアに消えたのか』 大島 幹雄 祥伝社 1680円

### 20世紀初頭、ロシアを熱狂させた日本人サーカス!

ファンタジーや幻想小説のファンなら、共感してもらえらるだろう。どうしてサーカスという響きはあれほど魅惑的なのか。華やかなのに物悲しく、軽やかなのに妖しげ。来たかと思えばもういない……。本書は小説ではなく、20世紀初頭、ロシアで消えた日本人一座の足取りを追ったノンフィクション。そこからサーカスの本質が見えてくる。1988年、サーカス・プロモーターである著者は、訪れたモ

スクワで3枚の写真を見せられる。「この日本人のことを知っていますか」。着物姿で曲芸をするサーカス芸人たち。彼らは革命前のロシアで絶大な人気を誇った「ヤマダサーカス」の団員だった……。戦前の資料を丹念に調べるうちに、明らかになる団員の消息。革命や戦争のさなかでも己の技だけで国境を越えていくサーカスは、誰にも支配されない絶対自由の存在。それは幻にも近い。

ノンフィクション/  
評論

読得指数

印税生活は  
夢?  
★★★★★

東 えりか



『新・何がなんでも作家になりたい!』 鈴木 輝一郎 河出書房新社 1575円

### 作家であり続けるため方法論

22年のキャリアを持つベテラン時代小説作家・鈴木輝一郎は、多くの新人賞受賞者を生んだ小説教室の名講師でもある。2002年に上梓された「何がなんでも作家になりたい!」は、長く多くの作家志望者、および新人小説家のバイブルであった。あれから10年。出版不況の事態は深刻なうえに、原稿の書き方、渡し方、制作過程、売り方もすべて新しい方法に

対処していかなければならなくなっている。本書は現在における“小説家になる方法”をきちんと洗い出し、作家になりたい人への知恵を授け、新人賞を取って作家になったら、どうやって続けていくかも懇切丁寧に教えてくれる。小説家という仕事を選択したのなら、それで食べていかなければならない。それがどういうことか、本書をじっくり読んで学んでほしい。

エッセイ/  
社会

読得指数

原理的に  
学びを考える  
★★★★★

鈴木 謙介



『ワークショップデザイン論——創ること学ぶ』 山内 祐平、森 玲奈、安斎 勇樹 慶應義塾大学出版会 1890円

### ワークショップをデザインするための基礎

ワークショップという形態はあちこちで流行っていて、学校だけでなく、まちづくりだとか企業経営の中でも盛んに取り入れられている。学習環境デザインが専門の著者たちによる本書は、そうした最近のトレンドに敏感な層向けの本とは異なり、やや「硬派」な作りになっている。単なるワークショップのノウハウ集ではなく、どのようなデザイン(設計)が、どのような学びの効果をもたらすかにつ

いて原理的に解き明かしつつ、他方で実際のワークショップの例も交え、具体的なイメージを持つことのできる作りになっているのである。このように基礎から丁寧に解説することで読者は、どこかで行われたワークショップの借作物ではなくオリジナルのワークショップを設計することができるようになるだろう。それこそがワークショップの本来的意義だと考えれば、是非読んでおきたい一冊だ。

エッセイ/  
社会

読得指数

イノベーションの  
発想を知る  
★★★★★

鈴木 謙介



『世界はひとつの教室「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション』 サルマン・カーン/著 三木 俊哉/訳 ダイアモンド社 1680円

### なぜ新しい学びの形を生み出したのか?

大学業界では、いま授業のオンライン化が話題になっている。アメリカ発のトレンドだが、日本の大学に動める評者にとっても他人事ではない。本書はそのブームの火付け役となったサービスの創業者による著作だが、これを読むと教育のオンライン化が「ネットで講義ビデオを配信する」といったものとはまったく違うことが分かる。それは教育機会を均等に配分し、また教育のイメージそのものを変え

てしまうような可能性を秘めた、大きな変化なのだ。そして何より興味深いのが、それが生み出された過程だ。いかに勉強を教えるというありふれた出来事から、「学ぶとは何か」といった深い問いを導き出し、解決策を生み出していく。そのプロセスこそイノベーションの真骨頂であり、また新しいことを始める際に、私たちがどのような思考や教養を持っておくべきなのかということも教えてくれる。